

「私たちが暗闇に留まることのないように」

クリスマスおめでとうございます。クリスマスの礼拝を皆さんとお捧げすることが出来る恵みを感謝します。入堂行列をプロセッションといますが、実は私たちは日々プロセッションしているのです。神様の招きに応じて神様のもとへ向かう行為こそ、プロセッションなのです。陪餐もそうです。祝福を受ける行為もそうです。イエス様の前に自ら進み出ていく行為こそがプロセッションなのです。

世界で最初のクリスマス礼拝をお捧げしたのは羊飼いでした。天使のお告げを聞いた羊飼いは、さあ主がお知らせくださったその出来事を見ようではないかと、天使のお告げに恐れ戸感いながらも、招きに応じてみ子イエス様のもとへ駆けつけて礼拝をしたのです。この羊飼いの礼拝もまさにプロセッションだと思うのです。

本日の福音書ですが「初めに言があった。」と新共同訳聖書では訳されていますが、皆さまお気づきでしょうか。「言」には葉っぱがついていません。これは根源的な意味が込められています。旧約聖書の創世記に記されている天地創造の箇所では神は「光あれ」と言われました。これがすべての始まりだったのです。そして神は創造されたものをすべて祝福されて、極めて良いとされたのです。私はこの天地創造の言こそこの世界をお造りになった神様の熱い思いを感じるのです。

神さまの熱い思いとはあらゆるものを幸せと喜びに招く熱き思いなのです。言い換えるならば私たちが幸せに生き活きと生きることが神さまの思いなのです。しかし、私たち人間はその神さまの熱い思いに心の目を閉ざしてしまっていないでしょうか。内

向きな関心によって、関心が外に向かない状態、ヨハネ福音書に出てくる「闇」の正体はこれです。自分のことしか考えられない人間は幸せに生きることが出来ません。

私自身も自分へと関心が向く時があります。そんな時はたいがい心の中が不満因子で満たされ、精神的に疲弊してしまいます。

原因を自分ではなく、他に求めている時は「闇」に支配されているのだと思います。自分自身が変わらないといけないのです。そのように思えた時・・・、

そこに「光」を見ることが出来ます。闇だと思っていたのは、「私」自身が目を閉じてしまっていたからであり、目を開ければそこには神さまの熱く優しい思いを感じる事が出来るのだと思います。

「闇」は自分が変われば「光」になるのです。クリスマス礼拝で灯されるろうそくの光を見つめながら「私」自身の中にある心の「闇」を照らすために御子イエスは这个世界に來られたことを深く黙想したいと思います。私たちが暗闇に留まることのないように、キリストはひかりとして世に來られたのです。（司祭 ステパノ 越山哲也）

*2021年12月25日 クリスマス大礼拝説教より

